



第2回
台湾

グローバル・アイル Global Aisle

～世界の棚から～



世界で最も親日な国の一つである台湾。バナナやマンゴーなどの果物をはじめ、多くの良質な食品を産出し、日本に輸出しています。近年では、中国との強い経済的関係を生かして発展。その台湾のいまを台湾貿易センター東京事務所の陳英頭(ちん・えいけん) 所長に聞きました。

台湾貿易センター 東京事務所
陳 英頭 所長
Raymond Chen

台湾から見ると、日本のスーパーマーケット企業はとても魅力的。「日本と台湾の企業が協力して中国本土の膨大な市場を開拓することが、これからの日本企業が成長する一つのモデルではないでしょうか」

●——— 日本のスーパーマーケットの印象について聞かせてください。 ———●

日本は小売・サービス業全般のレベルが非常に高く、スーパーマーケットの商品構成、売場づくりも先進的だと思います。実際に、台湾の小売業者が頻繁に訪日してスーパーマーケットを視察し、その経営スタイルを学んでいます。とにかく新しい発見ができるという印象ですね。

台湾の小売業界では、多くの百貨店が日本企業と台湾企業とのアライアンスによって運営されています。スーパーマーケット業界でも、いくつかの日系企業が進出しているように、日本企業は台湾の流通業に大きな影響力を発揮していると考えています。

●——— 日本における具体的な活動状況について教えてください。 ———●

台湾貿易センターでは、日本・台湾間の貿易の橋渡し役として、企業訪問や商談機会の提供、ビジネスパートナーの紹介などに取り組んでいます。その一つが、日本で行われる商談会への出展

促進です。日本市場への関心の高さにより、たくさんの生産者・メーカーから出展要請を受けています。

●——— 台湾産品の魅力は? ———●

日本の皆様にとって、最も親しみがあるのはバナナでしょう。台湾バナナは100年以上もの生産の歴史を持ち、日本にも盛んに輸出されてきました。現在でも、たくさんの方々はその香りのよさと美味しさをご満足いただいています。

最近アップルマンゴーも人気です。私どもはそれが世界で一番美味しい品種であると思っています。沖縄や宮崎でつくられるマンゴーも台湾産品であるといえ、その理由を納得できる方も多いのではないでしょうか。また、今年から日本への

輸出が解禁されたドラゴンフルーツは、これから注目の台湾フルーツになると考えています。

そのほか、青果ではレタスや枝豆、水産ではマグロやウナギ、加工食品では春雨やビーフンなど、さまざまな食品が日本の皆様に親しまれ、良好な取引関係が築かれていますね。

中でも現在、台湾政府が積極的にPRしている

食品の一つは、台湾鯛(いずみ鯛・テラピア)。養殖が盛んに行われ、日本では寿司ネタとしての需要が高まっています。また、台湾では日常的に食べられている野苺草(ノカンゾウ)などの山菜は、日本で大きなビジネスチャンスになると期待されています。

●——— 日本の食品は台湾ではどのように受け入れられているのでしょうか? ———●

非常に人気があり、スーパーマーケットには日本食コーナーが導入されています。コシヒカリなどの日本米は、台湾米より高い価格でもよく売れていますね。

台湾は多くの食品を日本から輸入しており、日本

はアメリカに次ぐ第2位の輸入国となっています。日本から見ても、青果輸出の約7割、果物輸出の約5割は台湾向けとなっています。それほど両国間の貿易は活発に行われているといえます。

●——— 両国間のビジネスの将来像について聞かせてください。 ———●

日本企業は商品開発力や高質なサービスを強みとする一方、台湾企業はスピード感やコストパフォーマンスの高さを強みとしています。それら相互の特徴をうまく融合すれば、1+1=2以上の力となるのではないのでしょうか。加えて、両国間の関係はとて良好ですから、さまざまな連携が進むだろうと期待しています。

その一例は、日本のサンヨー食品と台湾の頂新集団の合弁企業として、中国最大手の食品メーカーとなっている康師傅(カンシューフ)。中国の即席麺市場で圧倒的なシェアを誇るだけでなく、アサヒビールや亀田製菓なども合弁企業を設立し、食品分野における多角化を進めています。

このように両国間では、事業の開始当初から、そして事業が軌道に乗ってからも連携できるという関係にあるのです。

また、私は欧米の見本市に参加する機会が多いのですが、日本や台湾の見本市のほうがホスピタリティに溢れているように感じます。ですから、運営レベルが世界一高いといえる日本には、中国などアジアをはじめとする海外でもっと見本市を開催していただきたいと考えています。そして、グローバル化が進行する中で、日本企業の皆様にはぜひ台湾企業と手を組み、中国だけでなくアジア全体の新たなビジネスチャンスをつかんでいただきたいです。

Interviewer: Akio Sato (Team Japan inc)

【台湾貿易センター】

URL ● <http://www.taitra.gr.jp/>

台湾の対外貿易促進を目的として、1970年に設立された非営利団体。本部は台北にあり、その他4ヵ所(新竹、台中、台南、高雄)の国内事務所と、58ヵ所の海外事務所をネットワーク化し、台湾企業の国際競争力の強化、海外企業のビジネスマッチング、世界市場への進出をサポートしている。

日本では1973年、東京に事務所を設立。以来、日本市場開拓ミッションを招いて、多くの見本市へ出展し、両国間の貿易振興を図っている。また、日本企業に対して、台湾からの買付けや台湾への投資、市場開拓のサポート、展示会へのPR活動などを実施。現在、日本国内に3つの事務所(東京・大阪・福岡)を構えている。